Discover
Malaysia Newsletter

2026.05

Visit Malaysia 2026 Truly Asia

新緑がまぶしい季節を迎え、日本各地でも旅行需要が高まる中、
マレーシアでは「マレーシア観光年2026」のプロモーション活動がさらに活発化しています。
5月は、日本国内での交流イベントや大型フェスティバルへの参加に加え、ボルネオ地域の自然・文化資源の発信、さらには大阪・関西万博に関連したサステナブルな取り組みなど、多彩な話題が展開されました。

Topics 01

サバ州・サラワク州で伝統的な収穫祭が開催 ボルネオ島に息づく、感謝と祝福の文化

マレーシア・ボルネオ島のサバ州およびサラワク州では、毎年この時期、豊作に感謝する伝統的な収穫祭が開催されます。サバ州では5月30日・31日に「カアマタン（Kaamatan）」、サラワク州では6月1日・2日に「ガワイ（Gawai）」が行われ、先住民族の文化や信仰に根差した重要な祝祭として親しまれています。期間中は、色鮮やかな民族衣装や伝統舞踊、音楽パフォーマンスに加え、地元料理や地酒なども披露され、地域全体が祝祭ムードに包まれます。観光客も参加可能で、マレーシアの多民族文化や地域コミュニティの温かさを体感できる貴重な機会となっています。近年は、こうした文化体験型観光への関心も高まっており、サバ州・サラワク州はエコツーリズムとあわせて注目を集めています。

Report 01

大阪・東京で「VM2026 ネットワーキングディナー」を開催 日本市場に向け、マレーシア観光の最新情報を発信

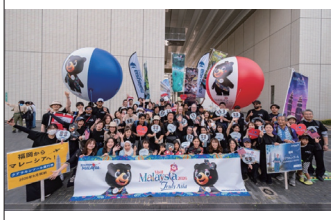
大阪では、約 50 名、東京では、約 70 名の参加となりました

マレーシア政府観光局は、4月23日に大阪「フォーシーズンズホテル大阪」、24日に東京・六本木のレストラン「ニルヴァーナ ニューヨーク」にて、「Visit Malaysia 2026（VM2026）ネットワーキングディナー」を開催しました。当日は、旅行業界関係者、航空会社、メディア関係者などが参加し、「マレーシア観光年2026」に関連する最新の観光情報や今後のプロモーション施策について紹介しました。クアラルンプールの新たな観光スポットや都市開発、ラグジュアリーホテルの開業情報に加え、自然・文化・グルメ・サステナブルツーリズムなど、マレーシアの多彩な魅力を紹介。また、日本国内で展開予定の各種プロモーション施策やイベント情報についても共有しました。今後も「マレーシア観光年2026」に関する、日本市場における情報発信および交流機会の創出を積極的に展開してまいります。

Report 02

「博多どんたく港まつり」に“マレーシアどんたく隊”が参加

5月3・4日に福岡市で開催された「博多どんたく港まつり」に、マレーシア政府観光局による“マレーシアどんたく隊”が参加しました。
パレードには、「マレーシア観光年2026」のロゴを掲げた横断幕や、公式キャラクターであるマレーグマの「ウィラ」と「マンジャ」のモチーフを施したバルーンも登場し、パレードを盛り上げました。在日マレーシア人や留学生、ボランティアメンバーらとともに、福岡の街を歩きながら国際交流を深めました。
沿道では多くの来場者が足を止め、写真撮影や交流を楽しむ様子も見られ、日本国内におけるマレーシアへの関心の高さを改めて感じる機会となりました。福岡～クアラルンプール路線の再開も控える中、九州エリアでのプロモーション強化にもつながる取り組みとなりました。



パレード後には交流会も開催し、さらに深いコミュニケーションとなりました

Report 03

クアラルンプールでフェス「Rain Rave Water Music Festival 2026」開催

クアラルンプールでは、都市型音楽イベント「Rain Rave Water Music Festival 2026」が開催されました。
“雨を楽しむ”というユニークなコンセプトのもと実施された本イベントは、水・音楽・光・カルチャーを融合させた新感覚フェスティバルとして注目を集め、国内外から多くの来場者で賑わいました。イベント会場では、ライブパフォーマンスやウォーター演出、フォトスポットなども展開され、若年層や海外旅行者を中心に高い関心を集めました。「マレーシア観光年2026」を象徴する大型イベントのひとつとして、今後の成長も期待されています。

クアラルンプールの中心地・ブキッビンタンで開催され、多くの観客が集いました

Topics 02

大阪・関西万博2025 マレーシアパビリオンで使用した竹材をアップサイクル

「大阪・関西万博2025」のマレーシアパビリオンで使用されたマレーシア産竹が、万博終了後、新たなプロダクトとして再利用されました。マレーシアパビリオンは、「Interwoven（編み込む）」をテーマに、民族・宗教・文化の多様性が共存するマレーシアを表現。マレーシアの伝統織物「ソンケット」をモチーフに、約5,000本の竹を用いた印象的なデザインが大きな注目を集めました。今回再利用されたのは、パビリオン内装に使用されていたマレーシア産竹。建築を手がけた隈研吾建築都市設計事務所により、竹を活用したアップサイクルプロジェクトが実施され、「コートハンガー」として新たな命が吹き込まれました。本プロダクトでは、日本の「竹組み」技法に加え、竹粉と樹脂を組み合わせた3Dプリント技術も活用。竹材を“第二の生命”として再生させることで、サステナブルなものづくりと循環型デザインの可能性を発信しています。完成したコートハンガーは、日本国内のマレーシア政府関連機関へ寄贈されました。

アップサイクルされた竹のコートハンガー ▶

〈取材・素材提供について〉

マレーシア政府観光局では、観光、文化、グルメ、留学などに関する取材・素材提供を随時承っております。
ご関心のあるテーマがございましたら、お気軽にお問い合わせください。

TOURISM MALAYSIA

本件に関するお問い合わせ・取材申し込み
マレーシア政府観光局

東京支局／久保田 TEL：03-3501-8691 **MAIL：**mtpbtokyo@tourism.gov.my
大阪支局／TEL： 06-6444-1220 **MAIL：**mtpb.osaka@tourism.gov.my
または、マレーシア政府観光局 広報事務局 株式会社OfficeMR内 **担当：**前田・漆間
TEL：03-3301-8088、**MAIL：**malaysia_pr@office-mr.jp

Visit Malaysia 2026 Truly Asia